

兵庫県立農業高等学校(定時制) 令和5年度学校評価報告書

1 学校教育目標

校訓「ゆたかな情操、たくまめ研鑽」の精神を基調に21世紀の日本の担い手としての自覚と、豊かな創造性及び深い人間愛の精神を持ち、自らが主体的に判断し、行動できること豊かな人材育成をめざす。

2 重点目標

- (1) 基本的生活習慣の確立を図り、社会的自立に必要な自主性・社会性を育てる。
- (2) お互いを思いやり、尊重し、命や人権を大切にできる豊かな情操や徳性を養う。
- (3) 個を生かし個をのばす教育を充実させ、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

・多様な学校関係者(全校生徒・卒業予定生徒・保護者・教員)からの学校への評価を総合的に第三者が判断する方法は妥当であり、特に卒業予定生徒からの評価は意義が大きいと思われる。
・過去の取り組みの評価をもとに見直し・改善がされているうえに、学校関係者にもわかるように示されており妥当である。

5 総合的な学校関係者評価

アンケートの結果をよると、職員、生徒、保護者ともに高評価であり、充実した学校教育が実践され、生徒は主体的に学校生活を送り、保護者の期待に応えられている様子がわかる。
・多くの生徒が学び直しの必要性を感じており、意欲的に学ぶ気持ちになるような教育活動がなされているようである。仕事と両立する生徒が多く、今後とも生徒の健康保持・安全に留意してもらいたい。
・生活体験発表に出席し、現代の定時制の生徒の様子に触れることができた。多くの生徒から人との関わり、挨拶やコミュニケーションの大切さを学んだという意見が聞かれた。人間関係が希薄な現代において大切な要素に気づいてくれたことが嬉しく感じた。
・学力差や国籍の違いなど多様な生徒への対応に苦慮されているようだが、即効性のある対策はないので、教職員個人ではなく、ALL県農で対応し、できるところから一つ一つ改善に向けて地道に取り組んでもらいたい。

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C やや改善 D 要改善)

分野	評価項目・取組内容	達成状況	学校の取組状況・改善の方策	
1	開かれた学校づくり (1) 広報活動(情報発信)の積極的展開 (2) 家庭や地域との連携強化	A	・学校行事ごとに担当者がホームページを積極的に更新・発信し、こまめに学校活動を発信できている。その結果、昨年度に比べ、ホームページに掲載する内容が多様なものになっている。 ・次年度は日々の授業の様子など、生徒の日常をもっと発信していきたい。ホームページの更新を担当している総務部内の業務分担を見直したい。 ・オープンハイスクールへの参加が増えた。 ・オープンハイスクールや奉仕活動をなど通して地域との連携が強まっていると感じる。 ・体育大会で多くの保護者が参観にこられており、関心があることがわかった。 ・様々な業務が立て込むことはあると思うが、保護者連絡を密に取ることが大切な学校であると思う。	
2	生徒指導 (1) 規律ある学校生活(交通安全指導を含む)の確立 (2) 生徒の内面理解を図る指導の工夫 (3) いじめの未然防止	B	・粘り強く指導した結果として、正しい生活を心がけようとする生徒が増えていると感じる。 ・年々学校生活に規律がうまれている。 ・生徒の遅刻が減っていない。また廊下での歩きスマホが多いので、マナーの周知もする必要が有る。 ・特定の生徒の遅刻や欠席が目立つ。 ・基本的な生活習慣や挨拶、礼儀が身に付いていない生徒が多い。 ・授業態度などは、なかなか一人の教科担当では改善しないこともあるので、教員同士が連携して指導できればと思う。	
3	教育課程 (1) 基礎学力の定着指導 (2) 創意工夫を生かした総合的な探究の時間の効果的な実践 (3) 個に応じた学習指導、授業研究の推進 (4) 特別活動の活性化	B	・生活基礎など学び直しの授業が多数あることで、分らなかつたことが分かるようになり、生徒の自信や自己肯定感の向上につながっている。 ・年度途中で点が見えてしまった生徒のモチベーションを保つことが困難である。 ・国籍や特性の関係もあるが、非常に学力が低い生徒がいるのでそういった生徒への支援をどうしていくかが困難な課題である。 ・2年生の総合的な探究の時間では、生徒の振り返りの中に、自分自身の成長につながっているという記述があった。 ・特別活動について、規律を守ることはよくできているが、自主性を持たせることが出来ておらず、引き続き今後の課題である。	
4	進路指導 (1) 3(4)年間を見据えた組織的な進路支援体制の充実	A	・企業訪問やインターンシップなど自分の進路について考えさせる機会が年々充実しており、外部機関との連携により、より具体的に卒業後の進路について考えることができたように思う。 ・今年度指定のジョブサポート事業を通して、2年生の段階から生徒が自分の進路について考えを深められている。 ・さらに行事の見直し・精選をしながら、来年度に向けた。 ・卒業後の早期就職が多い。社会で求められるものと、本校の学校生活で求められるもののギャップが大きいことが一因ではないかを感じる。	
5	人権・道徳教育 (1) 生徒の確かな人権意識の育成 (2) 人権・道徳教育推進体制の充実 (3) 情報モラルの育成	B	・学年が工夫して人権LHRを計画実施しているが、学校全体として3(4)年を見通した系統立てた指導計画を作成する必要がある。 ・本校ではトラブルの原因になっていることが多いので言葉遣い、情報モラルの育成を引き続いて強化していきたい。	
6	保健指導 (1) 適切な保健指導体制の確立 (2) 心と体の健康の両立	A	・職員会議や打ち合わせ等での生徒情報交換がよく機能しており、情報共有できている。 ・カウンセリングが必要な生徒に積極的に声をかけるなど、カウンセリングの活用ができている。 ・支援が必要な生徒について、担任・学年団中心に対応しがちになるが、学校全体で情報共有し、対応できるようになるとさらによい。 ・実施の先生が積極的に動いてくださっているが、学年としてどうするかを考えないといけないと思うときがある。	
7	危機管理体制の整備と防災教育 (1) 実効ある危機管理マニュアルの策定 (2) 教職員の実践的な研修・訓練 (3) 防災教育の推進	B	・危機管理マニュアルの見直しを進めているが、引き渡しや地震時の対応について、まだ足りない部分があり、様々な危機に対応した危機管理マニュアルへ改善する必要がある。 ・研修・訓練は定期的の実施できているが、より実践的に行っていくため、突発的な災害、自主防災の学びを推進していきたい。 ・講演会や避難訓練など年々良くなっており、特に昨年度からの講演会は大変現実味のある内容で今後も継続していきたい。 ・生徒の心のケアについても具体的な内容の研修をしていきたい。	
8	教職員の資質向上 (1) 計画性を持った研修の実施 (2) 社会の変化に対応した教育観の育成	B	・職員会議ごとに生徒情報交換、内容を共有したい外部機関の報告を実施した。また、長期休暇中にはICT活用校内研修、AED講習会、カウンセリングマインド研修、特別支援教育研修などを計画的に実施し、課題を共有している。ただし、外部での研修報告は、まだ十分に実施できておらず、さらなる必要性を感じる。 ・ICT機器の活用法の理解やスキルなど教員間で大きな差があり、協力して教えあうなど、スキルを向上させる必要がある。 ・新しい取組・システムについて教員同士が支え合うお互いの声かけの推進が必要。	
9	10 学校の特色化・個性化	(1) 3修制授業の内容の明確化と充実	A	・奉仕活動では、目標・目的の確立の時間や振り返りの時間を十分に確保し、町内会共同で清掃活動を行うなど、今年度から内容をさらに充実させた。 ・一方で、今年度初の試みが多かったので、その状況を踏まえて、次年度以降さらに精錬していければよいと思う。
(1) 県農定時制キャリア教育プログラム「個に応じ社会との接続を意識した系統的キャリア教育」の推進		B	・キャリア教育全体の流れを教員が把握できるようになった。 ・当該学年1年間を見通すことはできていないが、3(4)年を見通すまでには至っていない。 ・外部機関との連携により、より具体的に卒業後の自分の進路について考えることができたように思う。 ・早期就職を防止する取り組みを考え、進めていきたい。	
11	(1) 県指定事業「高校生心のサポートシステム」研究開発の推進	B	・年度当初に目標や内容を確認しているものの、職員間に十分浸透しておらず、全体像を認識できている職員が少なすぎる。組織的に取り組めるようにしたい。 ・普通科・定時制で対応できる限界を超えた支援を必要とする生徒が入学しており、これまで以上に対応を考えていく必要がある。	

6 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
・学校ホームページの掲載について、学校行事にごたわずら、些細なことで学校の様子が伝わるようにしてもらいたい。 ・奉仕活動など、一部自治会と共同での取り組みをしていることがわかった。さらに地域と連携できる内容を模索していただきたい。 ・コロナ禍を越え、保護者・地域との協働活動が再開、活発化している。さらに活発になるよう互いに考えていくためにも地域への情報発信も大切にしてほしい。
・生徒が落ち着いて学校生活を送っている点から、教員が丁寧に生徒と関わっていることがわかり、評価できる。継続して取り組んでもらいたい。 ・規律ある学校生活に関して、教職員の評価にばらつきがあり、できていないという回答が少なからずあるのが気になる。学校規律の維持には職員の意識が一体となつての取組が重要である。 ・基本的な生活習慣の確立に向け、ホームルームや生徒会活動などへの生徒の自主的な参加を促しているが、生徒自身が自らの在り方や生き方など向き合えるような教育活動が期待される。
・多くの生徒が学び直しの必要性を感じており、意欲的に学ぶ気持ちになるような教育活動がなされているようである。 ・基礎学力の定着指導や個に応じた学習指導はかなり根気が必要である。「できる」「わかる」という体験を多く持てるような学ぶ環境やしくみ作りを工夫してもらいたい。 ・基本的な生活習慣の確立に向け、ホームルームや生徒会活動などへの生徒の自主的な参加を促しているが、生徒自身が自らの在り方や生き方など向き合えるような教育活動が期待される。自主性や積極性を育てようというは難しい課題であるが、人とのコミュニケーションの中で学び、人間的にも成長できるよう期待する。
・多様な生徒が入学しており、卒業後の進路決定がますます難しくなっていることが想定される。学校内だけでなく解決が難しい課題もあり、ハローワークをはじめとした外部機関と連携し、情報を早くたくさんキャッチし、職員間で共有することで、生徒のよりよい進路選択ができるよう取り組みを続けてもらいたい。 ・多様な生徒が入学しており、個別最適化された対応が要求されるようになってくる。1年生の段階から卒業までの間に出来る事、出来ない事を予想し、それに即した指針を立てて対応することが必要であろう。
・学校全体として3(4)年を見通した系統立てた指導計画を作成する必要があるのであれば、人権担当の部署を中心に各学年担当会で会議を持つなど、意識疎通をすることが重要である。是非実践していただきたい。 ・学校では把握しづらい、SNS上のトラブルが多いということである。学校生活全体で、適切な言葉遣い、情報モラルの育成について指導することが大切である。
・仕事と両立する生徒が多いということ、今後とも生徒の健康保持・安全に留意してもらいたい。
・1月には石川県能登地方の震災があり、災害についての情報がリアルタイムに入ってきている時期である。危機管理への意識向上に努めていただければ、引き続き工夫するようお願いしたい。 ・多様な災害を意識した実践的な訓練や指導を導入、災害を我がこととしてとらえ、より実践的な取り組みとなることを期待する。
・昨年の問題点が解決されたことが伺えます。更なる状況改善へ向け努めていただければ幸いです。 ・外部での研修報告をきちんと実施し、タイムリーな課題に対応できるように職員研修を継続してもらいたい。 ・道級指導などの新しい取り組みなどについて教員同士が支えあえるよう、お互いの声かけの推進を意識してはどうか。
・学校の「大きな目玉」と言える取組があることは評価できると思います。一層の推進をお願いします。 ・コロナ対応が緩和され、奉仕活動を通じた地域でのボランティア活動の展開などの連携を深めることが実際に実践されている。 ・取組の充実に向けて着実に取り組まれることを期待する。
・定時制課程におけるキャリア教育は重要と考える。体制が確立しつつあることが伺えるため、更なる推進をお願いします。 ・学生生活の終着を就職とせず、その先にある働き方や生き方、人生や生活などを意識した取り組みを期待する。
・県予算による様々な事業の実施は、教職員の負担を伴うが、教育の質の向上に寄与しているはずであるから、今後も積極的な実施をお願いしたい。 ・取組の指針をしっかりと教職員で共有し、教職員全体で主体的に取り組むことで、生徒の心の成長につなげてもらいたい。